

1. 提案の概要

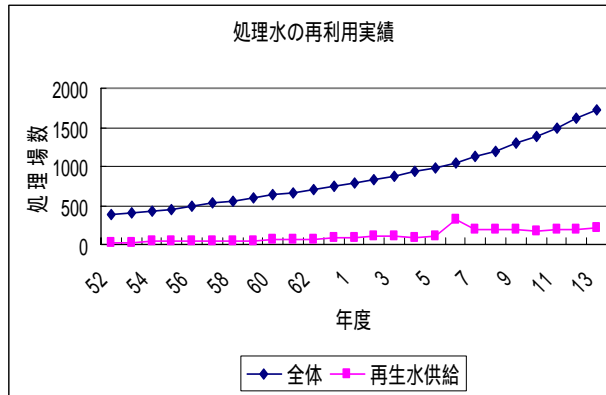
都市の中心部に積極的に処理場を配置し、都市の物質、エネルギー循環拠点とする。

- ・都市部にある学校、公園等公共施設の内部に設置することにより、用地の取得コストの削減と、安定した需要者の確保
- ・処理水、熱など利用しやすいものから供給を始め、最終的には汚泥から回収したエネルギー（消化ガス、電力）も供給
- ・身近な環境教育施設として活用

2. 提案の背景

- ・下水道の持つ未活用エネルギーへの期待は高いものの、その活用は必ずしも進んでいない。
- ・下水道施設は都市中心部より郊外に建設されることが多く、必ずしも供給に適している場所にあるとはいえない。

再生水利用



再生水を供給する処理場は、処理場全体に比べ伸びていない。

熱利用(市街地)

積雪地域

大都市中心部

限られた場所で利用



ニーズがすぐ周りにある

ニーズを積極的に求め、施設位置、技術の追求

3. 提案の効果

- ・都市の中心部にあるため、下水道整備の効果がアピールしやすい。
- ・学校等と連携すれば、環境教育に生かされる。
- ・処理水を利用した防災・防火拠点
- ・安定した需要者により循環事業の安定



4. 実現のためのシナリオ

- ・循環拠点の住民へのアピール
- ・小型で高効率な処理施設の開発
(膜分離法など、ユニット化し需要に応じ増設容易なシステム、小規模でも効率的な汚泥処理システム等を開発)
- ・公共施設の立替、地域の再開発等に併せ設置候補地の確保
- ・ごみ等他の静脈施設とも連携策の追求
ごみを利用した発電により循環施設の運転
資源ごみ(缶、ビン等)のリサイクル拠点:作業用水の提供
- ・従来の処理場は中心部で処理しきれない下水の処理、汚泥の資源化などを実施